令和3年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立　　寿山　　小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和3年5月27日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語，算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。
この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。
学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。
なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1．調査の目的

⑴ 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
⑵ 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
⑶ そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2．調査内容

⑴ 教科に関する調査（国語，算数）

教科に関する調査（国語、算数）
① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等 ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に 関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

⑵ 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

⑴ 全国・本市の学力調査（国語，算数）の結果

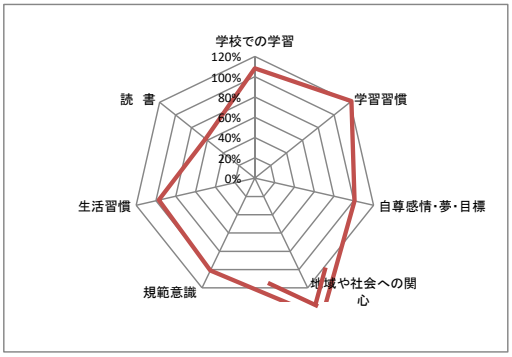
本年度の結果	国語		算数	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.8	63	11.0	69
全国	9.1	65	11.2	70

⑵ 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	・漢字の読み書きなど、日常的に正しく活用し、理解している児童が多い。 ・文章全体の構成を捉え、内容の中心となる事柄を把握することができる児童が多い。 ・「何について問われ、どう答えるか」与えられた情報を取捨選択しながら答えを書くことを苦手としている児童が多い。 ・つなぎ言葉を使って、自分の考えを書くことを苦手とする児童が多い。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	思考に関わる語句の使い方を理解し、話や文章の中で使うことができるかみる問題	
	努力が必要な問題	目的に応じて、文章と図表とを結び付けて必要な情報を見付けることができるかどうかみる問題 目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約することができるかどうかをみる問題	

算数	全体的な傾向や特徴など	・「速さ」や「道のり」、「面積」を正しく求めることができる児童が多い。 ・日常生活に必要な時刻や時間を求めることができる児童が多い。 ・目的に応じて集めたデータを二つの観点から、二次元の表に分類整理することを苦手とする児童が多い。 ・具体的な根拠を基に、自分の考えを説明したり、書いたりすることを苦手とする児童が多い。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	棒グラフから、数量を読み取ることができるかどうかを見る問題	
	努力が必要な問題	帯グラフで表された複数のデータを比較し、示された特徴をもった項目とその割合を言葉と数を用いて説明する問題 複数の図形を組み合わせた図形の面積について、面積や高さの求め方を筋道を立てて説明する問題	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析

・家で自分で計画を立てて勉強をする習慣が身に付いてきている。
・宿題に継続して取り組むことが、基礎学力の定着につながっている。
・地域の行事に積極的に参加する児童が全国平均より多い。
・授業中にタブレットやデジタル教科書をよく活用している。児童自身も操作方法に慣れてきているとともに、学習に役に立つと考えている児童が多い。
・学んだことを普段の生活に活用できないか考える児童が多い。
・学校生活以外で1時間以上読書をする児童が全国平均よりかなり少ない。
・国語科の授業の必要性を感じていない児童が多い。
・スマホやコンピュータを使ってゲームを長時間行う児童が全国平均を上回っている。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

・目的や条件を明確に指示して、要約して書くこと、自分の考えを書く活動を大切にし、日々の学習に取り入れる。高学年なら60字（ノート三行）程度の制限をつけて行う。
・学習した漢字は必ず使うように日頃から声掛けをする。
・読書活動の推進・国語辞書の日常的な活用など、言葉の特徴や使い方に関心をもたせる取組を行う。（朝学習での毎日の読書タイム等）
・全教科において振り返りの質を向上させる。「楽しかった」「分かりました」ではなく、理由や根拠を必ず書くように指導する。
・「どうして」「なぜ」「つまり」「その根拠は」など、問い直しが多くみられる授業研究を行う。

② 家庭生活習慣等に関する取組

・家庭学習の時間については、改善の傾向。「家庭学習の手引き」を配布し、引き続き協力を図る。
・就寝時間、起床時間、スマホやパソコンの使用時間など、家庭や地域と連携して、生活習慣を見直す強化週間を設定する。
・依然、家庭での読書をする時間が伸びていない、ノーテレビ・ノーゲームデーの推進や読書週間の推進を行う。